

弥次さん喜多さんと歩く 箱根旧街道西坂

東海道随一の難所、箱根西坂はかつてさまざまな旅人たちが行き交いました。今回は江戸時代の旅人というとまず頭に浮かぶであろう『東海道中膝栗毛』に登場する弥次さん・喜多さん（彼らは十辺舎一九が書くところの架空の人物）とともに名所めぐりをしていきましょう。

江戸の神田八丁堀に住む漆の絵付けをして暮らす弥次郎兵衛と居候の喜多八の二人が「伊勢詣で」を思い立ち、数々の失敗や滑稽を繰り返しながら、東海道を西へ。一行は箱根の関所も無事通り、西坂の下りにかかりました。（以下引用文）

長明が東海道記に曰、松に雅琴の調あり、浪に鼓の音ありと。息杖の竹笛をふけば、助郷の馬太鼓をうつ。膝栗毛後編の序びらき、ヒヤリヒヤリ、てれつくてれつくすってんてん。

箱根峠



玉くしげ箱根の山の九折おり、げにや久かたの禮売 やさんしよ魚の、名所多き山路かな

甲石



甲石跡

それよりかぶと石をよめる弥次郎兵衛

たがここに脱捨おきしかぶといし

かかる難所に降参やして

斯て山中といへる建場にいたる。爰は両側に、茶店軒をならべて「おやすみなさいアし。くだりも諸白もおざりやアす。もちよあがりやアし。いつぜんめしアがりやアし。お休みなさいやアしお休みなさいやアし」



峠の地藏



岩波文庫『東海道中膝栗毛（上）』より

山中新田

笹原新田

三ツ谷新田

市山新田

塚原新田

三島宿



絵はがき「箱根山頂上接待茶屋」（大正時代）



箱根旧街道碑



旧街道石畳



岩波文庫『東海道中膝栗毛（上）』より



芭蕉句碑

題目坂



七面堂跡

それよりみちすがら、たがひにしゃれ合、國沢（玉沢か）といへるにいたる。ここに法花寺といふてらに、あしかがぶしょうの、こんりうありし七めん堂あり。弥次郎兵へはるかにこれをふしおがみて

あしかが 足利のぶしやうの建し名にめでて七面堂といふべかりける

斯くて三人はなしつれて、市の山にいたる。

（ここで子供たちから泥亀を買う）

新町橋と三島宿



時に日がいらした。ちと急やせう。あしばやに三人たどる。既に其の日も暮にちかづき、入相のかね幽にひびき、鳥もねぐらに帰りがけの駄賃馬追立て、とまりを急ぐ馬士唄のなまけたるは、ほてつばらの淋しくなりたる故にやあらん 此のとき、やうやく三しまのしゆくへつくと、両かはより、よびたつる女のこへごへ・・・

旅籠の夜の泥亀騒ぎ



三島宿の朝



『東海道中膝栗毛（上）』（十辺舎一九作、麻生磯次校注、岩波書店、1773年）より抜粋。また、（）は注釈。浮世絵、絵はがきは三島市郷土資料館所蔵のもの。

弥二さん喜多さんと歩く 箱根旧街道西坂

発行日：令和4年5月

編集・発行：三島市ふるさとガイドの会

印刷補助：三島市教育委員会

箱根西坂の歴史と坂名称

箱根西坂は富士の眺望と遺跡に恵まれた地域です。当時日本最古の旧石器時代の落とし穴が見つかった初音ヶ原は、のちに源頼朝が鶯の初音を聞いて名付けた所と伝えられています。また南北朝時代、竹之下の合戦で新田義貞と足利尊氏、直義が戦った野七里、山七里あるいは嶺七里として太平記に記されています。更に、天下分け目の合戦、観応の擾乱で足利一族が戦いを繰り広げた場でもあります。戦国時代末期には、豊臣方と小田原北条氏の戦いの。そして江戸時代、江戸と京・大坂を結ぶ東海道の最も主要な往還道でありました。平安・鎌倉時代以降、武家・公家、幾多の文人墨客が往来したことが旅の記録として残されています。

江戸時代、旅人相手の建場、茶屋、お休み所などで生計を立てていた山中、笹原、三ツ谷、市山、塚原の五新田は鉄道が敷設されると峠越えが激減し生活が成立たなくなってしまう。そこで、集落の周りで根菜類など野菜を作りはじめました。今はおいしい箱根西麓野菜として大人気です。

①箱根峠

箱根宿より挟石坂を上り相州・豆州の境を越えると豆州三島宿への下りとなります。

今ははっきりとした境は見られませんが、信号のあるところが県境（国境）で傍示杭があったと言われています。エコパークの西には峠の地蔵があります。

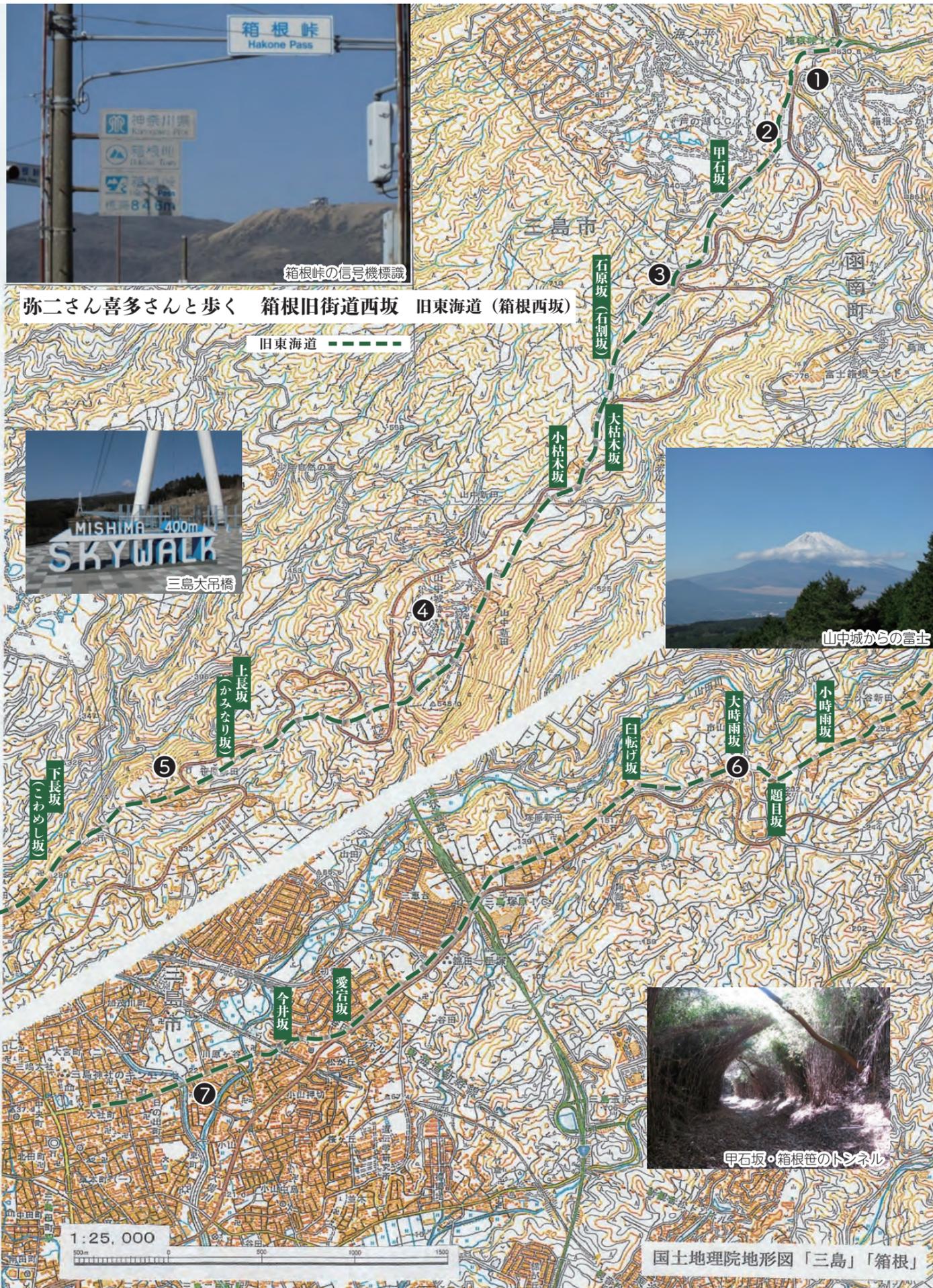
②茨ヶ平入口

今の旧街道は芦ノ湖カントリーへの取り付け道路をしばらく行った所が入口になります。

馬頭観音（八つ手観音）があり、左手奥に井上靖の八里記念碑があります。この辺りを甲石坂といい、今は山中一里塚にある甲石があったことに困んでいます。

③接待茶屋跡

もとの接待茶屋は国道の反対側にありました。山中一里塚（南塚）が残っています。甲石、有徳公徳川吉宗の記念碑があり、右手に上ると施行平で明治天皇休憩碑、東山魁夷の箱根八里記念碑があります。もとに戻れば石原坂で、しばらく下ると右手に念仏石があります。大枯木坂を下ると農場脇に出て、国道を横切ると小枯木坂から杉林の中の願合寺の石畳に入ります。往時の石畳がよく保存されていて、石畳の出口には雲助徳利の墓があります。



④山中城跡

戦国時代末期の小田原北条氏の城ですが、天正 18 年の戦いで半日で落城したという悲しい歴史があります。北条氏の障子堀の遺構が残り、山城の様子わかる貴重な城跡です。戦闘で命を落とした両軍の将兵の墓など見どころも多いところです。

山中城跡の大駐車場入り口には司馬遼太郎の八里記念碑があります。

ここから、富士見平にある芭蕉の句碑を通り過ぎれば、最近人気のある三島スカイウォークが見えてきます。そして、これをさらに進めば笹原一里塚があります。

⑤笹原一里塚

南塚だけが残る一里塚です。大岡信の八里記念碑が添えられています。この辺りからは集落の中を通ることが多くなりますが、庚申塔脇で道路を渡ると下長坂（こわめし坂）の難所です。右に一柳庵、左に山神社、また右に松雲寺といくつかの見どころを見ながら小舎雨坂、大時雨坂を下ると坂小学校につきます。ここが七面堂跡です。小学校裏の題目坂を下ると、左手からの玉沢妙法華寺への道を迎え、この坂を過ぎると法善寺があります。

⑥法善寺

かつて妙法華寺への道にあったという題目石が2基この境内に安置されています。六地藏が2組並んでいる地藏堂を過ぎると臼ころげ坂に出ます。右に宗福寺、左に普門庵を見ればやがて箱根路と彫られた大きな石碑があります。フルーツパークの前に出て、塚原 IC を渡り、松並木に入れば二基一対の錦田の一里塚で、龍澤寺の老師鈴木宗忠（心鏡）の八里記念碑があります。やがて大根の碑があり、愛宕坂とつづきます。

⑦宝鏡院

今井坂を下れば川原ヶ谷です。新町橋の南に宝鏡院があり、足利義詮の墓があります。新町橋を渡るといよいよ三島宿。橋のもと、三島側にかけて処刑人の曝し首場があり、今は慰霊の地藏像が鎮座しています。

